

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 明治大学

(2) 大学名

明治大学大学院

(3) 大学の位置

〒214-8571

神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1

(〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1)

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(ナガホリ モリヒロ) 長堀 守弘 (平成20年4月1日)		
学長	(ナヤ ヒロミ) 納谷 廣美 (平成16年4月1日)		
大学院長	(ヨシムラ タケヒコ) 吉村 武彦 (平成20年4月1日)		
研究科長	(ミムラ マサヤス) 三村 昌泰 (平成23年4月1日)		

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

(5) -① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備 考
	修業年限	入学定員	収容定員	
先端数理科学研究科 現象数理学専攻 (博士前期課程) 修士(数理科学)	2 年	15 人	30 人	基礎となる学部等 理工学部

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

区 分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	15 (-) [-]	(-) [-]	0.66倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	12 (0) [2]	(-) [-]		
受験者数	() []	() []	() []	() []	12 (0) [2]	(-) [-]		
合格者数	() []	() []	() []	() []	11 (0) [1]	(-) [-]		
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	10 (0) [1]	(-) [-]		
入学定員超過率 B/A					0.66倍			

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成21年度		平成22年度		平成23年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[]	[]	[]	[]	[1]	[-]	
2年次	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
3年次	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
計	[]	[]	[]	[]	[1]	[]	

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

(5) -① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備 考
	修業年限	入学定員	収容定員	
先端数理科学研究科 現象数理学専攻 (博士後期課程) 博士(数理科学)	3年	5人	15人	基礎となる学部等 理工学部

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

報告年度 区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	5 (-) [-]	人 (-) [-]	1.0倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	7 (0) [2]	- (-) [-]		
受験者数	() []	() []	() []	() []	7 (0) [2]	- (-) [-]		
合格者数	() []	() []	() []	() []	5 (0) [2]	- (-) [-]		
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	5 (0) [2]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A					1.0			

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成21年度		平成22年度		平成23年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[]	[]	[]	[]	[2] 5	[-] —	他研究科からの転入者が2年次に5名、3年次に3名在籍(23)
2年次			[]	[]	[2] 5	[-] —	
3年次					[0] 3	[-] —	
計	[]	[]	[]	[]	[4] 13	[]	

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	(主な退学理由)		
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	(主な退学理由)		
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
(主な退学理由)			

11	15	10	36	[11]	[15]	[10]	[36]
----	----	----	----	---	----	---	---	----	---	---	----	---	---	----	---

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \frac{0}{36} = \boxed{0}$$

2 授業科目の概要

<先端数理科学研究科 現象数理学専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究指導	(研究指導) 現象数理学研究	1~3				5 4	2 3	3 2				職格昇格のため(23) 二宮広和(教授→准教授) 新規任用のため、教員を追加(23) 末松信彦(講師)
特修科目	現象数理学演習提案型プロジェクト研究I	1・2・3前			2	5	2					
	現象数理学演習提案型プロジェクト研究II	1・2・3後			2	5	2					
博士後期課程プロジェクト系科目	先端数理科学A	1前		2		5	2					
	先端数理科学B	1後		2		5	2					
	Advanced Mathematical SciencesC	1前		2		1						
	Advanced Mathematical SciencesD	1後		2		1						
	日本古代学(歴史学) I	1前			2							
	日本古代学(歴史学) II	1後			2							
	日本古代学(考古学) I	1前			2							
	日本古代学(考古学) II	1後			2							
日本古代学(文学) I	1前			2								
日本古代学(文学) II	1後			2								

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
0	4	8	12	0	4	8	12	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
				[]	[]	[]	[]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \frac{0}{12} = \boxed{0}$$

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	その他には農場，寄宿舎，借用地，附属学校施設を含む。		
	校 舎 敷 地	238,187㎡	0㎡	0㎡	238,187㎡			
	運 動 場 用 地	368,691㎡	0㎡	0㎡	368,691㎡			
	小 計	606,878㎡	0㎡	0㎡	606,878㎡			
	そ の 他	493,842㎡	0㎡	0㎡	493,842㎡			
	合 計	1,100,720㎡	0㎡	0㎡	1,100,720㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
		258,511㎡ (258,511㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	258,511㎡ (258,511㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 補助職員にTAを含む 教室：用途変更による修正(23) 職員：配置変更による修正(23)		
	249室 241室	164室 158室	385室 381室	29室 158人 (補助職員 160人)	23室 (補助職員 18人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数				
		先端数理科学研究科現象数学専攻		9 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学共有分図書数 2,422,555 学術雑誌数 30,595〔7,956〕 電子ジャーナル数 44〔39〕 視聴覚資料は大学全体
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕					
	冊	種	種	点	点	点		
	文学研究科 文芸メディア専攻	24,640〔479〕 (24,040〔449〕)	7〔0〕 (7〔0〕)	4〔4〕 (4〔4〕)	39,678 (39,257)	0 (0)	0 (0)	
計	24,640〔479〕 (24,040〔449〕)	7〔0〕 (7〔0〕)	4〔4〕 (4〔4〕)	39,678 (39,257)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		保存書庫を含む		
		23,914㎡	3077席	2,429,361				
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要			体育館には駿河台スポーツホールを含む		
		12,450㎡	バレーコート，テニスコート，ゴルフ練習場，プール等					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	2,296千円	2,346千円	図書購入費	179千円	204千円	298千円
	共同研究費等	66,803千円	68,273千円	設備購入費	— 千円	407千円	630千円	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		820千円	540千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金，資産運用の果実及び寄附金その他の収入をもって維持運営する。						

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年△△月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年□□月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

7 その他全般的事項

<先端数理科学研究科 現象数理学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>全学的な教育支援体制に係る諸施策の立案及びその推進を通じて、組織的かつ継続的に教育内容及び教育技法の改善を行うことにより効果的な教育活動の実践を支援・促進することを目的として明治大学教育開発・支援センターを設置している。</p> <p>また、大学院においては、各研究科長を構成員とする大学院教育改革推進委員会を設置している。</p> <p>さらに、本研究科では、先端数理科学研究科委員会において教育貢献及び授業改善に関する事項を協議・検討している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>先端数理科学研究科委員会は毎月1回実施されている。委員会メンバーは研究科担当教員により構成されており、毎回ほぼ全教員が出席している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 大学院シラバス（先端数理科学研究科）における記載内容の改善に関する事・ 授業改善項目に関する事・ その他、FD活動全般に関する事 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 大学院シラバス（先端数理科学研究科）における記載内容の改善に関する事・ 授業改善項目に関する事・ その他、FD活動全般に関する事 <p>b 実施方法</p> <p>先端数理科学研究科委員会は毎月1回実施されている。委員会メンバーは研究科担当教員により構成されており、毎回ほぼ全教員が出席している。</p>

c 開催状況（教員の参加状況含む）

F Dに関する活動は、今年新設された研究科であるので、今後意欲的に取り組んでいきたい。また、後期課程においても、研究指導における指導改善を目指した活動等を視野に入れている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

開設初年度につき、該当なし

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本研究科は、「社会に発信し、社会に貢献する数理科学」を目指す文理融合・領域横断型の教育研究を展開する。自然、社会、生物等に現れる複雑なシステムを先端的な数理科学を用いて解明し、これを社会に還元することにより社会イノベーションの実現を図り、人類の福祉の向上に寄与する。この理念の下に、本研究科は、高度で幅広い数理科学的素養を身につけ、さまざまな現象とのインターフェイスとなって数学と諸科学の掛け橋を構築する力を持った国際的に活躍できる人材の育成を目指す。

平成23年度に設置され、開始したばかりであることから本研究科の現状を評価するのは難しい部分もあるが、博士前期課程では、数学と諸科学の融合を目指す現象数理解論的思考及び技術を身につけた研究者または高度専門職業人を育成することを目的に、複数指導体制のもとで複眼的視野での研究指導を開始することが出来ていると考えている。

博士後期課程では、博士前期課程の人材養成の目的を踏まえつつ、さらに研究者として自立して研究活動を行う人材を育成する。特に、イングリッシュトラックとして4名の外国人留学生（台湾、マレーシア、インドネシア、ナイジェリア）が在籍しており、英語による研究指導、セミナーがMIMS所員、研究員参加のチームフェローのもとで行われている。

今後は、高度で幅広い数学的素養を基にして、社会に広く貢献する人材の育成を目指す。このため、本専攻では、現象の本質を見抜き、理解する抽出モデルの構築を柱とする数理科学の教育研究を行う。自然、社会、生物等における諸現象を数理的観点から研究する現象数理解論に重点を置き、「モデリング」「数理解析」及び「シミュレーション」をキーワードとした教育課程を編成する。また、自然科学に限らず、人文・社会科学にも目を向けた文理融合・領域横断型の教育を実践し、さまざまな領域に対する現象の数理解論的解明を可能とする能力を養う。

さらには、国内外の現象数理解論に関する教育研究機関との人材交流、単位互換及び学術交流により、世界レベルの現象数理解論教育を展開し、国際的に活躍できる人材を育成する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成25年3月公表予定

b 公表方法

・自己点検・評価の結果をホームページで公表し、広く学内外から結果に対する意見を聴く体制をとっている。

③ 認証評価を受ける計画

・平成26年度に「大学基準協会」の評価を受けるべく、学内で検討中

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (2011年6月公開予定)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(公表した場合、承諾する)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.meiji.ac.jp/koho/disclosure/secchi/>)